



四六判
僕の流儀 What's Next?
 加藤 雅也 著
 ISBN4-8013-0687-5
 税込1760円

俳優・加藤雅也、初のエッセイ集！
芸能生活で得た学びと気づきを綴る

北野武監督の『BROTHER』、三池崇史監督の『荒ぶる魂たち』をはじめ、数多くの映画やドラマ、舞台で鮮烈な演技を披露してきた俳優・加藤雅也。俳優歴35周年、DJをつとめるFMヨコハマの「加藤雅也のBANG BANG BANG!」の10周年、そして60歳という節目の年齢を迎えたこの年に初の著書を出版することになりました。国立大の学生だった青年がモデルの世界に足を踏み入れた意外なき…



四六判
大作家でも口はすべる
 彩図社文芸部編
 ISBN4-8013-0701-8
 税込1430円

言葉のプロがうっかり漏らしたぶっ飛び発言のアンソロジー
恩師を皮肉る太宰治、作品への勝手な声に不満な夏目漱石…

本書は、作家たちの本音や失言、暴言を集めたアンソロジーです。名作を生み出し、歴史に名を残した作家といえども、言葉選びを誤ることもしばしば。むしろ、必要以上に周囲を巻き込み、世間を騒がす問題に発展することもありました。師匠である佐藤春夫や井伏鱒二を作品内で皮肉って、大叱責を受けた太宰治。こき下ろした作家の弟子から決闘を申し込まれた、坂口安吾。雑誌の後記で、原稿料や各号の売れ行き、…



四六判
文豪たちの嘘つき本
 彩図社文芸部編
 ISBN4-8013-0653-0
 税込1430円

嘘から迫る文豪たちの素顔

先生！嘘は小説だけにしてください！

本アンソロジーのテーマは、文豪たちの「嘘」。題材は、小説ではありません。随筆や手紙、周囲の人々を書き留めた、文豪自身の嘘が題材です。「死んでやる」と言い過ぎて記者にキレられた太宰治。親しい人に嘘のハガキでいたづらをする芥川龍之介。「彼の嘘を聞くと春風に吹かれるようだ」と評された歌人・石川啄木など。どこか魅力的で憎めない嘘を通じて、文豪たちの意外な素顔に迫る一冊。…



四六判
虚実医霊
 千国礼拓 著
 ISBN4-8013-0545-8
 税込1430円

元 除霊整体師が紡ぎだす怪異アンソロジー

「怪談奇談お持ちの方、初見料はいりません」

「怪談奇談お持ちの方、初見料はいりません」珍妙な看板を掲げた除霊整体師のもとには、様々な霊障を抱えた患者がひっきりなしにやってくる。毎晩夢の中に現れる男性、住宅街にひっそりと佇む首吊り屋敷、女子大生に忍び寄るバラバラ死体の亡霊……。生命力の象徴である“えねいと”を巧みに操り霊障を取り除いていく整体師だったが、ある患者から「聞くだけで人体に障る」と言われる怪談を聞かされてしまい……



四六判
俺はやる
 輸入道 著
 ISBN4-8013-0472-7
 税込1540円

全てさらけ出した魂の自叙伝！

突発性難聴、生い立ち、×××、ダンジョン……

激熱注意！ 輸入道の自叙伝。突発性難聴、両親との関係、いじめ、やさぐれた日々、フリースタイル……輸入道の魂全開の1冊！千葉出身のラッパー輸入道。10代からフリースタイルバトルで頭角を現し、様々な大会で優勝。こめかみに血管が浮かび上がらせ、気持ちをパチパチにぶつけるスタイルは、年齢性別を問わずに多くのファンからの絶大な支持を集めている。「熱い!」「真っ直ぐ!」というイメージで語…



四六判
文豪たちの口説き本
 彩図社文芸部編
 ISBN4-8013-0451-2
 税込1320円

SNSで話題沸騰のアンソロジー第二弾！

口説くのに必死なのは文豪たちも同じ

本書は、文豪たちの恋の顛末を、口説き文句を介して紹介する一冊です。愛人を夢中にさせた太宰治、素直になれない中原中也、甘い口説き文句を連発する芥川龍之介、先輩詩人を熱烈に慕った萩原朔太郎、知らずに男を口説く石川啄木、思いを伝えられない梶井基次郎、身も心も捧げようとした谷崎潤一郎……。口説き方は文豪によって千差万別です。誠実な口説き文句を伝え続けて願いを成就した文豪もいれば、気の利…



四六判
屍春期
 六幻地蔵 著
 ISBN4-8013-0418-5
 税込1320円

閉ざされたトイレ、コックリさん、夢に現れる謎の女……

塾の先生と生徒の体験に基づく怪異譚

僕の話の聞くと、多くの生徒たちは怖がりながらも強く興味を示した。今も昔も、子どもというのは神秘、幻想に憧れ、性別、趣味を問わず、それに聞き入るようだ。話を聞いた生徒の中には、返礼として「怖い話」を僕に教えてくれる子もいた。オカルトの知識で説明がつく場合が多かったが、どう考えても腑に落ちない、妙な話も時には聞いた。そんなとき、生徒に頼まれて不思議な話の真相を探ろうとしたこともあ…



四六判
文豪たちの悪口本
 彩図社文芸部編
 ISBN4-8013-0372-0
 税込1320円

青鯨が空に浮かんだような顔をしゃがって

文豪たちは悪口もすごかった

文豪と呼ばれる大作家たちは、悪口を言うとき、どんな言葉を使ったのだろうか。そんな疑問からできたのが、本書『文豪たちの悪口本』です。選んだ悪口は、文豪同士の喧嘩や家族へのあてつけ、世間への愚痴など。随筆、日記、手紙、友人や家族の証言から、文豪たちの人となりが見えるような文章やフレーズを選びました。これらを作家ごとに分類し、計8章にわたって紹介していきます。川端康成に「刺す」と恨み…